

肺が破れる程、又しても僕はおらびつゝけた。

喉佛が真空になる様な聲を出して、絶叫せずに居られないのだ。

それは生理的に耳が枯れて、腕の肉はダラ／＼に各個教練を初め、墨丸が臍近く上つて了つたのだ。

三疊敷程の板敷で、便所も堀つてなければ、おかはも入れてない。

爪先立てば頭のかえる天井も、九分板が打ち付けてある。

前と後は六寸角の材木の格子だ。

僕は格子に頭を打ち突けて、打ち割らなければ、氣が濟まなくなつた。

鼻の肉がとろけた臘のやうにとろけてふにやにふにやなつて、唇をうるほすつばもひあがつて了つた。

舌が獨りでにダラリと脱け落ち、息はむせぶ。

舌を噛み切つて棄てなければ、舌の付け根の筋が収縮しないのだ。

前歯で強く噛み締めて舌を冷す。